

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.19
平成26年12月9日

姿勢を正しくしよう！

養護教諭の伊藤美咲先生が、保健室で「姿勢を正しくしよう」というお話を各クラスの児童にしています。姿勢が悪いと「背骨が曲がる」「内ぞうの働きが悪くなる」「歯ならびが悪くなる」ということや、学習にも影響が出てくることなどを大型テレビの映像を使って分かりやすく説明してくれました。

学習への影響としては、頭痛・肩こり・腰の痛み・視力の低下・集中力の低下、けがのきけんなどをあげていました。

わたし自身もコンピュータに向かって、長時間座ったままの仕事が多いので、徐々に姿勢が悪くなり、最近、腰痛や肩の痛みに悩まされています。今日の保健学習を機会に、正しい姿勢や良い姿勢のための座り方や食生活の改善に、桜小学校の児童とともに努めていきたいと決意を新たにしました。



【1年竹組の授業】

ノーベル物理学賞に輝いた学者からのメッセージ（12/8全校朝礼より）

ノーベル物理学賞を受賞することになった日本の3人の学者は、何の研究で受賞することになったのですか？

S=青色発光ダイオード（LED）です。

T=そうですね。ノーベル賞を受賞する前に、天野教授と中村教授の会見が、昨日、TV放映されていました。報道陣から若い世代へのメッセージを求められた2人は、口をそろえて「チャレンジすること」を第一にあげていました。

中村さんは、「常に新しいチャレンジに向かうのが重要。こわがらず、新しいアイデアにどんどんチャレンジを。リスクをとらないとブレークスルー（突破）はない。」

天野さんも、「チャレンジすることが人類への貢献につながる」と期待を込めたメッセージを贈られました。

会見後、中村さんは朝日新聞の取材に「最近の日本の学生は海外に出たがらないと聞く。20、30年後の日本の将来が心配だ。このままでは、いい発明、いい製品まではできるが、グローバルには対応出来ない。リスクをとって、海外に出てほしい」と会見でのメッセージを解説されていました。

先日、校長先生が卒業した高校の同窓会報が自宅に郵送されてきました。それを見ていると、昭和49年に卒業した同級生Y氏の寄稿がのせられていました。彼とは、2年生のときに同じクラスだったので、なつかしく読み進めていくと、彼の天才的な聡明さが明らかになりました。

彼は、東京大学と宇宙科学研究所で14年、その後、アメリカのワシントン大学とインディアナ大学で生物学と医学を研究して26年になるそうです。宇宙工学を研究していたころには、スタンフォード大学に留学してNASA（アメリカ航空宇宙局）にも出向いたこともあるそうです。

現在でも大学教授・大学院生として研究を続けています。1年間の研究費は数千万円にものぼり、この研究費の獲得は、NIH（アメリカ国立衛生研究所）の論文次第だそうです。

みなさんの中にも、将来、海外の大学で活躍し、研究を続ける人が出てくるかも知れません。ひょっとしたら、ノーベル賞を受賞するような研究者が誕生するかも知れません。夢を大きくもって、勉強にも、運動にも、そして、何事にもチャレンジしてください。「わたしにはできない」とあきらめてしまわず、最後までチャレンジしてください。

